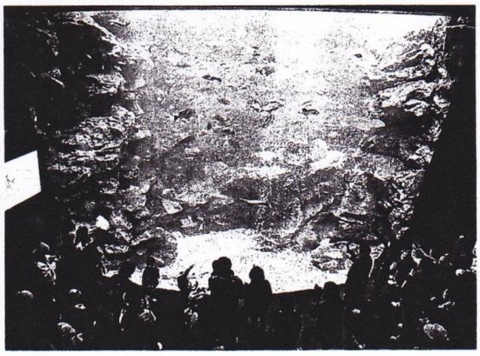
夏休み家族向け商戦熱く

子どもたちの夏休みが始まり、京都の商店街や集客施設が家族向け企画に工夫を凝らしている。ご当地グルメ祭や自由研究を応援する宿泊プランなどで、家族で外出して節電する「クールスポット」としても売り込む。

京の商店街・集客施設・ホテル

グルメや宿題応援 多彩


目に涼しい京都水族館の水槽。夏休みの家族連れ向け企画で集客増を目指す（京都市下京区）

嵯峨嵐山地域の商店街が中心の「嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会」などは8月4、5日、右京区の中ノ島公園で「京都特B級ご当地グルメフェスティバルin嵐山」を初開催する。市内一円の夏観光イベント「京の七夕」に合わせて45店舗が軒を連ね、京都しば漬け焼きそばや、近江牛肉巻きおにぎりなどを350～500円で販売する。真昼を避けて午後4～9時に催し、「川辺で夕涼みしながら庶民の味を楽しんで」と呼び掛ける。

3月に開業し初の夏営業となる京都水族館（下京区）は今月21日から、人気のイルカパフォーマンスに新たな演出を取り入れた。イルカの能力や行動を学べ、豪快な水しぶきで涼を体感できる。23日～8月3日の平日は日本公文教育研究会と共同開発した「イルカふうりん」を作るワークショップを開き、6～10日は小学生を対象に飼育員が疑問に答える「水辺のいきもの質問コーナー」も設ける。

宿泊プラン「京都で自由研究」を8月末まで売り出すのは新・都ホテル（南区）。京友禅や清水焼などを体験する「おそわるコース」をはじめ、京都の世界遺産巡りや地名クイズなど5コースを設けた。京都東急ホテル（下京区）は11、12日、教育番組「つくってあそぼ」に出演中の久保田雅人さんを招いて工作教室をランチ付きで催し、夏休みの宿題に役立ててもらう。

一方、京都高島屋（同）は25日～8月28日の「夏休みおこさまフェア」で、おもちゃ体験イベントやディズニーストア（7～21日）など多彩な企画を催し集客増を目指す。

（大西保彦）

EV給電システム貸与

日産とニチコン　府・京都市に80台

貸与するリーフと充電・給電シス
常務執行役員（左）＝京都市中京

日産自動車は23日、電気自動車（EV）に蓄えた電気を家庭などに給電するシステム計80台を、京都府と京都市の公共施設や企業、家庭に無償貸与すると発表した。昼間の電力需要ピークの抑制に役立てられるという。

日産のEV「リーフ」とニチコンが開発した充電・給電装置一式を来年3月末まで貸し出す。リーフの蓄電能力は24キロワット時で、一般家庭

などに続き京都は5例目。貸与数は累計490台となる。

京都市中京区のニチコン本社で共同会見が開かれ、山田啓二知事や門川大作市長らが出席した。日産の西澤正昭常務執行役員は「駐車場に置くだけでEVが大きな価値を生む」と強調し、山田知事は「地球温暖化と節電、停電時のライフラインと一石三鳥の活躍が期待できる」と述べた。

日産は貸し出しの中

1年度に2685メガワット

ールした。

ホンダがEV リース販売

ホンダは23日、主力小型車「フィット」の電気自動車（EV）を8月末から自治体や企業向けにリース販売すると発表した。充電インフラの整備が進んでいないとの理由で、一般向けの販売は見送った。

フル充電での走行距離は日産自動車のEV「リーフ」の200キロを抜き、国内メーカーのEVとして最長の225キロに達する。車体の軽量化などにより、エネルギー効率を高めた。一般の電源を利用した普通充電なら約6時間でフルに、急速充電器では約20分で8割まで充電できる。価格は8月末に公表予定。

超小型EVの試験車台公開

大阪の部品会社

次世代の地域の移動手段として期待されている超小型電気自動車（EV）の普及を進めようと、大阪のEV部品販売会社が23日、車輪やハンドル、モーターなどを備えた車の基礎部分「車台」を開発したと発表した。多くの企業に共通の車台を使ってもらうことで、量産による販売価格の低下を狙う。超小型車で2人乗りができる法制度の整備を待ち、売り出す計画だ。

大阪のEV部品販売会社が開発した超小型EVの基礎部分「車台」＝23日午後、大阪市中央区

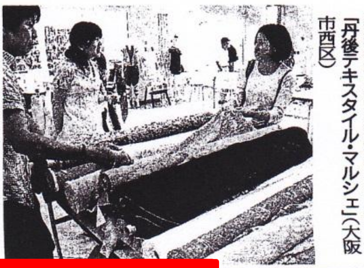
開発したのはTGMY（大阪市）。超小型EVを生産したい企業などに販売し、レジャーや運搬など用途に応じたさまざまな車体を組み合わせてもらう。車台の床に当たる部分には蓄電池を備える。

TGMYは23日、試験車両を公開。車台にスポーツカーのような形の車体を取り付けたもので、長さ約2・5メートル、幅約1・3メートル。約2時間半でフル充電でき、最大で約160キロ走行できる。現在の法制度で公道を走ることができる1人乗りにし、実際に走らせて耐久性や性能を確認する。

芦田隆社長は「車の基礎部分になる車台の供給で、小型EVの参入を考える企業の後押しができれば」と話した。超小型EVは税金などが原動機付き自転車と同じ扱いになる。TGMYは大阪府の支援制度を活用し、大阪

丹後の織物 洋装向けPR

染織4社、大阪で直売会


染織会社4社が洋装生地を直売した「丹後テキスタイル・マルシェ」（大阪市西区）

丹後地域の染織業者4社が23日、大阪市西区で洋装向け織物の直売会「丹後テキスタイル・マルシェ」を開いた。多彩な色柄をずらりと並べ、丹後産の絹織物をアピールした。

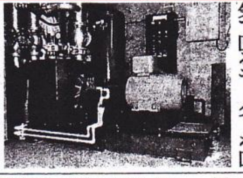
4社は京丹後市の大善と京都府与謝野町の宮眞、山口織物、大江。商品情報の発信を目的に、昨年に続いてアパレル業者や一般消費者向けに商品を安値で販売した。

透け感のある素材や、花柄の地模様や特産ちりめんの凹凸「しぼ」を浮かび上がらせた生地など約150種類を並べた。会場となったファッション専門教育機関「エスモード ジャポン大阪校」の生徒たちも足を止め、「手触りが柔らかい」と驚いていた。

大善の田中洋年社長（43）は「今年に入って受注が一層減り、厳しい状況だ。丹後の生地を知ってもらいたい」と話した。今後、九州でも開催を検討している。（中村幸恵）

ボイラー燃料 発電機で節約

内外特殊エンジ


ボイラーの蒸気を利用して発電もする蒸気圧力調整器

機械メーカーの内外特殊エンジ（京都市南区）は、ボイラー燃料を節約する蒸気圧力調整器に発電機を加えた新装置を開発した。蒸気で回るモーターを回生ブレーキとして発電に活用するアイデアで、8月から受注生産する。

新装置は、熱損失を減らすため湿った蒸気を高速回転させて再蒸発させる圧力調整器を改良し、送り出した蒸気で産業用モーターを回転させる。回転速度を周波数制御で抑える際に生じるエネルギーを電気に変える。

モーターに取り付ける羽根の形状を回転効率の高い水車型とし、素材はチタン合金で軽量化した。

8トンの蒸気を発生するボイラーに取りつければ、28キロワット時の発電が可能といい、ボイラー設置の工場などに節電対策用として売り込む。価格は1800万円。3年間で500台の販売を見込む。

（矢ヶ村尚幸）